

平成18年度第1回奈良県青少年問題協議会議事録概要

日時・場所

日時：平成18年7月20日（木） 10:00～12:00

場所：奈良県文化会館 第3会議室

参加者（敬称略、順不同）

< 副会長 >

西尾 哲夫（奈良県副知事）

< 委員 >

中西 幸雄（青少年育成奈良県民会議会長）

高柳 忠夫（奈良県議会厚生委員長）

木村 千佳（奈良県教育懇談会委員）

福中 眞美（奈良県PTA協議会副会長）

杉井 潤子（奈良教育大学助教授）

友廣 俊子（淀川キリスト教病院サイコロジスト）

森 秀人（NHK奈良放送局長）

本多 久美子（奈良弁護士会所属弁護士）

三笠 桂一（県立奈良医科大学感染症センター教授）

廣島 鎮江（奈良市少年指導センター児童生徒等指導アドバイザー）

議事概要

（1）平成18年度青少年育成施策主要事業について

各課から説明

質疑・こどもの権利条約と照らし合わせた上で、こどもにどう向き合っていくのかという大人の価値観、考え方を整理し、この協議会で稿を起こしてもらいたい。

（2）提言具体化に向けた検討状況について

各課から説明

（3）少年補導連絡会議の設置と奈良県少年補導に関する条例の施行状況について

県警生活安全部少年課より説明

質疑・補導条例に関してこの場所で論議する必要はなかったか。協議会においてはどういう位置づけなのか。

県庁のなかに少年補導連絡会議を設置した。警察と情報を共有しているということ、この協議会にも可能な限りの情報をお知らせしたい。

(4) 優良映画の推奨について

健全育成部会長欠席のため、事務局より説明

(5) 有害図書類の指定について

指導育成部会長、事務局より説明

(6) その他

質疑・青少年課が新規事業にニート関連を入れていることは評価できる。

グループワークについても連携をとり、参加させたい。

- ・子どもの関わる事件について評論的立場で論ずべきではない。日本における家族の問題として、親子関係が一斉に崩れかけているのではないか。日本人の家族意識、血のつながりについて、この協議会でも論議する機会があればと思う。
- ・生活のために働き、子育て、家事、自分のやるべきことを精一杯こなしているにもかかわらず、子どもが非行に走ったり、あるいは障害をもっていたりしているお母さんの相談を受けた時に、誰かが悩みを受けとめてあげて、心を軽くしてあげて、また子どもと接していける、そういったことが必要であると感じています。
- ・お父さん、お母さんを不安に追い立てる情報の出し方を考えてもらいたい。報道そのものも絶対化されすぎて、一旦マスメディアに叩かれると、弁明のしようがない。メディアの謙虚さがほしい。
- ・親が余裕をもって子どもと向き合い、あなたが大事であるというメッセージを幼児期の頃から伝えていくことが重要である。
- ・補導条例の運用も含めて、この協議会が市町村の青少年問題協議会といかに連携をとっていくかということが重要となる。

(7) 今後の予定について

今回は10月の下旬を目途に開催予定。